

MIS008-P03

会場:コンベンションホール

時間: 5月27日17:15-18:45

えりも沖の起こる地震の前に札幌観測点(HSS)で観測される特徴的なVHFの地震エコー

Characteristic EQ echoes observed at HSS before earthquakes which occurred off Cape Erimo.

森谷 武男^{1*}, 茂木 透¹

Takeo Moriya^{1*}, Toru Mogi¹

¹北海道大学地震火山研究観測センター

¹ISV Hokkaido Univ.

札幌観測点(HSS)では三石(MUJ), 浦河(URA), および八戸(HCI)からの地震エコーが下北半島沖, 浦河沖, えりも沖の地震と非常によく対応することが経験的にわかってきた. このなかでエリモ沖のMがおよそ5以上の地震では, 地震エコーには電界強度の変動のタイプで見て2種類あるように思われる. 一つは初期の数日間にあらわれる変動が細かく激しいが振幅はほぼ一定であるもの, もう一つはそのあとにあらわれる通常のタイプで変動がほとんどなく振幅が一定のタイプである. ポスターセッションではこの違いを詳しく示す.

キーワード:地震前兆, VHF散乱波,総異常継続時間,定量的関係

Keywords: earthquake presursor, VHF scattering (EQ Echo), Total duration time, quantitative relation